



昼間にしかできないこと以外は、朝イチか土曜に



広野道子

Michiko Hiroo

21LADY代表取締役社長

02年より洋菓子のヒロタのスポンサーとなり、社長として再建に携わった。

広野さんの やらないこと3カ条

昼間の会議は
やらない

集中するのは
15分以内

新聞は10分以上
読まない

「再生手続きを完了したというだけあって、経営再建中も「とにかく走りながら考える！」と機を飛ばしていたそう。会社のすぐ近くに住むことで通勤時間も短くし、ひとりで食べるときのランチは五分程度で済ませるといふ徹底ぶりだ。今やるべきことを瞬時に見極め、無駄をカットし、必要なら方向転換するといふ彼女の経営方針には、徹底した時間管理が当たり前のよう表れている。

経営破綻した「洋菓子のヒロタ」をわずか三年で再生させた21LADY社長の広野道子さんは、日中の時間を可能な限り有効に使うことを心がけている。「仕間の会議はやりません。日中は、実務をこなし、社外の人と会う貴重な時間。私にとって、人から得る情報がビジネスで最も大切なことの一つですから」

だから、会議は朝一番が、取締役会議であれば土曜に行うと決め、時間もできるだけ短くしている。「ヒロタの再建を始めたころは、三〇分も延々と言い訳ばかりする幹部がいて、結果、会議が五、六時間になることもあり閉口しました。そういうときは、配置転換を行い、組織がより効率的に回るよう改善するしかありませんでしたね」

書類の整理など雑用も平日昼間の時間を使わず、週末にまとめて行う。「不要な書類がたまっていくと必要な書類がすぐに取り出せない。だから半月に一度くらいまとめて捨てるんですが、やはり土曜日に会社してやります」

集中する時間は一五分。決めていているわけではないが、測るとそのぐらいだという。周囲の環境を気にせず、ぐっと集中できるからこそ、その場で決断し、すぐ次の仕事に移れるのだ。集中する時間を短くし、ダラダラやらない習慣はひとりでも多くの役割をこなさなければならなかったベンチャー企業時代に身についた。「無意識に優先順位をつけないとやっていられません。その日にやるべき重要なことから「一五分以内の集中タイム」で